

令和2年度
教育委員会事務の点検及び評価
報告書

令和3年6月
橋本市教育委員会

はじめに

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、教育委員会が行う事務として、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が新たに規定されました。

橋本市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明を果たすため、有識者会議を設置し、教育委員会事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、橋本市教育委員会ホームページで公表しています。

点検及び評価の実施を通じて施策の効果を検証し、絶えず改善を図りながら、教育施策の着実な推進に努めてまいりたいと考えていますので、市民の皆様の一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

令和3年6月

橋本市教育委員会

目次

I 本市における点検及び評価について

1 点検及び評価の目的	1
2 点検及び評価の対象	1
3 点検及び評価結果の構成	1
4 学識経験者の知見の活用	1
5 議会への提出及び公表	1

II 教育施策の点検及び評価

第2期橋本市教育大綱	2
------------	---

各重点的な取組の評価シート

1. 豊かな心を育みます

- (1) 「教育は家庭から」の理念に基づいて、関係機関が連携して家庭教育支援を推進する。…3
- (2) 家庭、学校、地域での人権意識の高揚に努める。 …7
- (3) 態度教育（あいさつ、返事、後片付け、食事のマナー、立腰等）を推進するとともに、道徳性を育てる。 …11
- (4) 地域文化や芸術、スポーツを楽しむ場を提供する。 …13
- (5) 多様な活動を通して、自然との触れあいに努める。 …15
- (6) ふるさと学習を推進し、郷土愛を育てる。 …17

2. 多様な学びと健やかな体を育みます

- (1) 基礎学力を基盤とし、主体的・対話的で深い学びを推進する。 …18
- (2) 学校・公民館等を拠点として、多様性・共同性の学びを推進する。 …21
- (3) 保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校の連携充実に努める。 …23
- (4) より良い学びの場のための教育環境を整える。 …24
- (5) 文化施設・社会体育施設（学びとスポーツを楽しむ場）の充実に努める。 …26
- (6) 持続可能な社会の担い手を育む教育（環境・人権・平和・キャリア・防災・福祉・国際理解等）を推進する。 …28
- (7) 読書活動の推進に向けて環境を整える。 …29
- (8) 食の大切さの学びを推進する。 …31

3. 地域・家庭・学校の連携を育みます

- (1) 共育コミュニティの活動を通じて、地域の活性化を推進する。 …33
- (2) 地域の教育力を学校運営に生かすために、コミュニティスクールの充実に努める。 …34
- (3) 共育コミュニティとコミュニティスクールが協働し、元気なまちづくりを推進する。 …36
- (4) 教育と福祉が連携し、安全・安心、学びあいのまちづくりを推進する。 …38

III 教育委員会の活動状況

1 橋本市教育委員会機構図	42
2 教育委員会の会議等の活動状況	
(1) 橋本市教育委員会委員	43
(2) 教育委員会会議の開催状況	43
(3) 教育功労賞	43

IV 関連資料

1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋	44
2 教育委員会事務の点検及び評価実施要綱	44

I 本市における点検及び評価について

1 点検及び評価の目的

教育委員会は、毎年、教育に関する事務が橋本市教育施策の方針に基づいて適切に実施されているか点検するとともに、その成果及び課題等について自ら評価することにより、効果的な教育行政の一層の推進を図ります。点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出して、公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進します。

2 点検及び評価の対象

令和2年度の「第2期橋本市教育大綱」の基本方針と重点目標の取組状況について、点検及び評価を行います。

3 点検及び評価結果の構成

○ 施策の柱

「第2期橋本市教育大綱」における18の重点目標

○ 重点的な取組

基本方針の柱ごとの目標を達成するための47の重点的な取組について「評価シート」を作成し、その具体的な施策、指標、令和元年度の目標・実績・評価、課題・今後の方向性を記載しています。

○ 課題・今後の方向性

令和2年度の点検及び評価の結果を踏まえ、目標の達成に向けた課題と今後の対応や方向を示しています。

4 学識経験者の知見の活用

点検及び評価についての客観性・公平性を確保するため、令和3年5月17日に会議を開催し、教育環境の施設整備に関する点検及び評価について御意見をいただきました。

◎教育委員会事務の点検及び評価に係る有識者会議委員名簿

氏名	役職等
いぬい こうはち 乾 幸八	橋本市区長連合会会長
かしわぎ よしみつ 柏木 善光	橋本市PTA連合会会長
かつらはら まさふみ 葛原 昌文	和歌山大学教育学部 教職キャリア支援室客員教授

(五十音順・敬称略)

5 議会への提出及び公表

令和3年6月議会に報告書を提出するとともに、橋本市教育委員会のホームページに掲載します。

<http://www.chw.jp/shisei/kyoikuiinkai/sesaku/tenken.html>

第2期橋本市教育大綱

[理念] 人が学びあい、共に育むまちづくり

－自治と協働のまち橋本市に向けて－

[基本方針と重点目標]

1. 豊かな心を育みます

- (1) 「教育は家庭から」の理念に基づいて、関係機関が連携して家庭教育支援を推進する。
- (2) 家庭、学校、地域での人権意識の高揚に努める。
- (3) 態度教育（あいさつ、返事、後片付け、食事のマナー、立腰等）を推進するとともに、道徳性を育てる。
- (4) 地域文化や芸術、スポーツを楽しむ場を提供する。
- (5) 多様な活動を通して、自然との触れあいに努める。
- (6) ふるさと学習を推進し、郷土愛を育てる。

2. 多様な学びと健やかな体を育みます

- (1) 基礎学力を基盤とし、主体的・対話的で深い学びを推進する。
- (2) 学校・公民館等を拠点として、多様性・共同性の学びを推進する。
- (3) 保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校の連携充実に努める。
- (4) より良い学びの場のための教育環境を整える。
- (5) 文化施設・社会体育施設（学びとスポーツを楽しむ場）の充実に努める。
- (6) 持続可能な社会の担い手を育む教育（環境・人権・平和・キャリア・防災・福祉・国際理解等）を推進する。
- (7) 読書活動の推進に向けて環境を整える。
- (8) 食の大切さの学びを推進する。

3. 地域・家庭・学校の連携を育みます

- (1) 共育コミュニティの活動を通じて、地域の活性化を推進する。
- (2) 地域の教育力を学校運営に生かすために、コミュニティスクールの充実に努める。
- (3) 共育コミュニティとコミュニティスクールが協働し、元気なまちづくりを推進する。
- (4) 教育と福祉が連携し、安全・安心、学びあいのまちづくりを推進する。

令和2年度 教育委員会事務の点検及び評価「評価シート」

重点的な取組	No. 1	子育て、親育ち講座の充実を図ります。	
	1-(1)-①		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭における子育てのあり方について、就学前並びに小学校低学年の保護者を対象に講座等を開催します。 ・子育てをテーマとして、「子育て講座」を開催します。 ・学校・福祉部局等の関係機関と連携のもと、子育てのあり方について考え、子どもの成長・発達を社会全体で見守る地域コミュニティづくりをめざし、子どもを取巻くよりよい教育環境の向上に努めます。 ・地域支援者の養成に努めます。 ・保護者が子育てに喜びを感じられるように働きかけます。 		
成果指標①	指標名・内容	地域支援者養成講座・子育て支援講座の実施	
	令和2年度の目標	地域で子育て支援をすることに興味を持ってもらえるよう、内容を考え前年度と同様に地域支援者養成講座・子育て支援講座を開催する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度地域支援者養成講座を1回開催、参加者は24名。 ・子育て支援講座を4回開催。参加者は237名。 ・本年度は、地域住民が子育てに関心を持ち、積極的にかかわろうとする意識を培い、「地域の担い手」を育成することを目的に講座を開いた。 ・幅広い世代からの参加があった。アンケート結果からは、「子どもとの時間を大切にしたいと思った」「大変参考になった、また参加したい」などの声を多く聞くことができた。 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会形式の講座だけでなく、親子で参加しふれあえる講座やオンライン形式など、多様な講座を実施した。幅広い世代からの参加があり、参加者アンケートの満足度を見ても高い評価を得ることができた。 	A
A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
成果指標②	指標名・内容	保護者間のつながりづくり	
	令和2年度の目標	開催回数は、現状維持とし、保護者同士のつながりができるよう、関係機関と園が連携して講座等の内容を工夫する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チームによる講座を87回開催（就学時健診含む）。 ・保護者同士のつながりづくりを中心に講座を展開した。 ・特に就学時健診時のワークにより、知り合いのいない保護者にとっては不安が軽減されたとのアンケート結果も得た。 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、講座数や参加者数が伸び悩んだ。就学児健診では、「初めて顔を合やす保護者と交流できてよかった」「近所に同じ年の子がいると思うと安心できた」など就学児健診を通じて保護者同士の繋がりが講座を通じ行えた。 	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度から健康福祉部家庭教育支援室に事務移管された。今後は家庭教育支援室と連携していく。 		

重点的な取組	No.2	教育相談センターを中心として、子育て世代包括支援センター「ハートブリッジ」など各専門機関と連携し、支援を行います。
	1-(1)-②	
担当部署	教育相談センター、青少年センター	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を整理し、問題解決に向けての有効な支援を検討します。 ・学校・福祉機関(子育て世代包括支援センター「ハートブリッジ」)や医療機関等と連携して、効果的な支援を行います。 ・子育て世代包括支援センター「ハートブリッジ」と連携を図り、課題を検討するケース会議を活用します。 ・臨床心理士等の専門家による支援を行います。 	
成果指標①	指標名・内容	長期欠席児童生徒数(不登校児童生徒数を含む)の低減
	令和2年度の目標	平成31年(令和元年)度長期欠席児童生徒数より10%減(120名を108名に、うち不登校児童生徒数77名を69名)に取り組む。
	令和2年度の実績	令和2年度長期欠席児童生徒数が120人(うち、不登校児童生徒数が93人)であった。小学校が37人から37人と増減なく、中学校も83人から83人と増減がなかった。実績から小学校・中学校ともに増減がなかったということでは、成果と言えるが、目標の1割減には及ばなかった。引き続き長期欠席生徒の学校復帰に向けての相談活動を実施してきたが不十分であった。
	評価	<p style="text-align: center;">C A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>学校と家庭への支援、及び福祉部局等関係機関との連携を行い、より多角的・総合的に対応するとともに、迅速に効率よく対応することを心掛けてきた。よりきめ細かく学校や福祉(ハートブリッジ)との連携を密にし、強化する必要があった。</p>
成果指標②	指標名・内容	不登校児童生徒の受け入れ
	令和2年度の目標	社会的自立や学校復帰を目指した適応教室の充実を図る
	令和2年度の実績	適応教室への利用について、開室日が164日、その全ての開設日に利用生があり、延べ417人が利用した。ボランティアを含め指導員(2名)が、集団活動を通じて社会性という適応力つけていくための努力を重ねてきた賜物であった。結果として中3生3名が全員高校への進学を果たした。また、中1、中2の生徒が確実に学校への登校日数を増やしていった。
	評価	<p style="text-align: center;">A A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>指導員の適切な関わりとボランティアの応援により、適応教室の利用生の数人が復帰・進学するとともに、利用生の全員が何らかの心の成長をとげた。</p>
成果指標③	指標名・内容	教育相談の充実、教職員に対する支援の充実
	令和2年度の目標	子ども・保護者に対する心理的支援の充実を図る。 学校教育と心理の双方に関する専門的知識を持った教職員の育成を行う。
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・年間相談件数548件1,769回、うち派遣(学校訪問)による教職員に対する助言をのべ1,958回実施した。 ・夏季休業中に大学教授を講師に招き教職員対象の事例研究を実施し、コロナ禍という理由で、各校1名と限定し20名の教員の参加があった。
	評価	<p style="text-align: center;">B A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>来所及び派遣により、心理的不適応児童生徒及びその保護者への支援ができた。また、派遣相談と夏季研修に教職員の資質向上に寄与した。</p>

成果指標④	指標名・内容	非行防止活動の実施	
	令和2年度の目標	補導件数が増加する長期休業中の補導活動を強化する。	
	令和2年度の実績	コロナ禍の中、学校や補導員等の関係機関と連携して補導活動を実施することができなかった。青少年センター職員で8回の補導活動を実施した。	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
各学校及び関係機関等と連絡を密にした。			
課題・今後の方向性	各学校及び関係機関とともに、協力体制の強化及び連絡を密にしながら補導活動を充実させる。		

重点的な取組	No.3	学校・家庭・地域・関係機関との連携を深め、青少年非行の未然防止活動に努めます。	
	1-(1)-③		
担当部署	青少年センター		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本市青少年補導員・学校教職員と協力し、夜間や長期休業中、夏祭り、秋祭り、夜店等の補導活動を行います。 ・不安を持つ青少年、保護者、学校等からの来所・メールによる相談を受理し必要に応じて専門機関と共同での指導や連携を行います。 ・有害図書を「やぎの箱」で回収するとともに、各商店や大型量販店、遊戯場等に協力要請を行います。 ・事故防止、環境浄化等の看板を作製設置します。 ・少年に関する情報や資料を収集し、センターだよりやちらし、看板、オリジナル教材等による啓発活動を行います。 ・善行児童生徒の表彰を行います。 ・非行少年等の立ち直りを支援します。 ・学校・警察・青少年補導員会等と情報交換を行い、必要に応じて研修を行います。 ・近畿・県・紀北地区青少年センター連絡協議会等との情報交換や研修を行います。 		
成果指標①	指標名・内容	立ち直り支援の充実	
	令和2年度の目標	青少年の心情を吐露することの出来る場を提供し、精神的な安定を図る。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち直り支援、精神的な安定を大切にした召致指導を12回のべ14人に対して実施した。 ・継続的な指導を実施することで、青少年だけでなく保護者にとっても精神的な安定を得られる指導ができた。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
継続的な立ち直り支援を含め、青少年・保護者への指導助言をおこなった。			
成果指標②	指標名・内容	環境浄化活動の実施	
	令和2年度の目標	引き続き回収を行う。	
	令和2年度の実績	有害図書（雑誌・DVD等）68点、一般図書73点回収し処分した。	

評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
	4つの駅を中心に月に一度回収し処分をした	
課題・今後の方向性	立ち直り支援を含め、健全な青少年の育成のため環境浄化・相談活動をより充実させる。	

重点的な取組	No.4	橋本市家庭教育支援チーム事業を推進し、家庭教育支援の充実に努めます。	
	1-(1)-④		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・親の集まる場を設定し、「食育」「家読」などのテーマで語り合いを行います。 ・家庭教育情報誌「げんきっこfamily」を年4回発行します。 ・家庭訪問し、子育ての悩みを聞いたり、必要とする情報を提供したりすることで、親の子育ての不安が軽減できるよう努めます。 ・就学時健康診断の場を活用し、就学に対する不安や悩みの語り合いの機会を設けます。 		
成果指標①	指標名・内容	家庭訪問の実施	
	令和2年度の目標	不安や悩みをかかえたまま、孤立する家庭が1件でもなくなるように福祉部局と連携しながら家庭訪問を実施する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問は9家庭（うち3家庭は訪問終了） ・家庭訪問実施件数は57件（ケース会議は1回） 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標②	指標名・内容	子育て・親支援講座の充実	
	令和2年度の目標	前年度と同様に、家庭教育支援チームによる親支援講座を開催する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チームへの各園・各校・公民館等からの依頼に基づき講座（就学時健診含む）を開催した。 ・保護者同士のつながりづくりを実施した。 ・前年度に引き続き、保育園・幼稚園・小学校・公民館等から講座の依頼があり、アンケート結果からは「息抜きの時間が持てた」「いいリフレッシュになった」などの意見が多く聞くことができた。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘスティアが結成されてから10年以上経ち、今と昔では子育てに対する考えやニーズが大きく変化していると感じる。新しいチーム員を迎え入れ、多様なニーズに応えるために多面的な支援ができるチームに成長していく必要がある。 ・令和3年度から健康福祉部家庭教育支援室に事務移管された。今後は家庭教育支援室と連携していく。 		

重点的な取組	No.5	子ども館・児童館活動を充実させ、各種事業を実施します。														
	1-(1)-⑤															
担当部署	生涯学習課															
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人格的な発達に必要な「遊び」と「創造」の意義をふまえ、各館の事業の充実に努めます。 ・学校との連携を深め、移動児童館事業、学校授業への支援を充実します。 ・児童厚生員は積極的に研修に参加し、資質と力量の向上に努めます。 ・地域子ども会が子どもと親にとって、共に育ちの場となるよう支援します。 ・異年齢間の交流や中高生の居場所・子育て支援の場等、誰もが楽しく過ごせる安全安心な居場所を作ります。 															
成果指標①	指標名・内容	児童健全育成の場としての各種事業の実施														
	令和2年度の目標	子ども館・児童館の事業については、児童生徒数は減少傾向にあるが事業参加者数は、例年と同等数を目指して企画する。														
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各児童館の事業参加者は、 <table border="0"> <tr><td>きしかみ子ども館</td><td>784名</td></tr> <tr><td>はらだ子ども館</td><td>274名</td></tr> <tr><td>友愛児童館</td><td>568名</td></tr> <tr><td>名古屋児童館</td><td>542名</td></tr> <tr><td>移動児童館・体育館</td><td>中止</td></tr> <tr><td>移動児童館・授業</td><td>743名</td></tr> <tr><td>夏休みこどもまつり</td><td>中止</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・4、5月は学校休校中のため事業ができなかった。6月以降、コロナ対策をしながら、各館で特色のある事業を企画し、季節の行事や手作り教室・遊び等の様々な催しを実施した。 ・移動児童館では、体育館実施・授業での季節の手作り教室共に市内の全14小学校で実施し、学校との連携も深まった。 ・子ども読書推進計画に基づき、図書室の環境を整えることができた。 	きしかみ子ども館	784名	はらだ子ども館	274名	友愛児童館	568名	名古屋児童館	542名	移動児童館・体育館	中止	移動児童館・授業	743名	夏休みこどもまつり	中止
	きしかみ子ども館	784名														
はらだ子ども館	274名															
友愛児童館	568名															
名古屋児童館	542名															
移動児童館・体育館	中止															
移動児童館・授業	743名															
夏休みこどもまつり	中止															
評価	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>子どもの安心安全な居場所であり、乳幼児から中高生世代・大人までの誰もが楽しく過ごせる児童館であるように環境を整え、切れ目のない支援ができる児童館として活動し、各館の事業に加え、学校に向く移動児童館等の事業も全小学校で開催することができた。また、今年のテーマに沿って、地域との交流を大切にし、子どもにとって貴重な体験をすることもできた。</p>	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成													
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成															
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数が減少し、授業時数が増え、帰校時間が遅くなったこともあり、事業参加がしにくくなっている。各館の現状あわせ工夫をする必要がある。 ・コロナ禍でできない事業が出てくるので、代替となる事業を模索する。 															

重点的な取組	No.6	人権教育啓発教材の作成と活用を図り、人権教育の推進に努めます。
	1-(2)-①	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	人権教育学習資料の充実に努めます。	
成果	指標名・内容	人権プロジェクトによる人権教育啓発資料の作成
	令和2年度の目標	作成した資料を全戸配布して、「インターネット上の人権」について橋本市で生活する全ての人々に気づき学んでもらう。

指標①	令和2年度の実績	人権教育啓発資料について人権・男女共同推進室と連携して作成。令和3年4月に全戸配付した。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		作成資料を全戸配布することで、橋本市全体に啓発の機会を作ることができた。	
課題・今後の方向性	人権プロジェクトによる人権教育啓発は、常に新しい情報を取り入れ、数々の人権課題の解消に向けて引き続き取組を行う。		

重点的な取組	No.7	学校における人権教育の充実を図り、学級等の集団づくりの充実に努めます。	
	1-(2)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・「橋本市人権教育基本方針」に基づき、小・中学校では副読本「しあわせ」等を活用した計画的・系統的な人権教育を実施し、豊かな人権感覚を持った児童・生徒の育成に努めます。 ・望ましい集団活動を展開し、集団の中で自他の価値を見いだせる仲間づくり・学級づくりを推進します。 ・自己肯定感と思いやりの芽生えを育てます。 		
成果指標①	指標名・内容	学校における人権教育の充実	
	令和2年度の目標	各校の状況により計画の見直しを行い、人権教育の更なる充実を図る。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校において人権教育全体計画を作成し、各校の状況に応じて重点課題を定めて人権学習の充実を図ることができた。 ・人権教育副教材「しあわせ」をはじめとする教材・資料を活用するとともに、外部人材からの講話や体験活動等をとおして人権学習を進めることができた。 ・人権教育副読本「しあわせ」の改訂を行い、令和3年度の配本分から使用を開始する。新たな人権課題に関する教材として、多様な性、デートDV等を扱った教材を盛り込んだ。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・各校の状況に応じて適宜計画の見直しを行っており、人権教育の充実が図られている。 ・新たな人権課題等も踏まえ、児童生徒が幅広く人権について学べるような教材を選定することができた。 			
成果指標①	指標名・内容	仲間づくり・学級づくりの推進	
	令和2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が互いに認め合い、大切にされていることが学校教育を支える基盤であるとの共通認識を持ち、各校における教育活動を展開する。 ・中学校における生徒主体の活動を推進するため、市内中学校生徒会交流会（橋本市生徒会連絡協議会主催）の企画・運営を支援する。 	

成果指標②	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 市内中学校生徒会交流会（橋本市生徒会連絡協議会主催）の企画・運営を支援し、参加生徒が学校のリーダーとしての意識を高め、他校の生徒との交流で経験したことを自校での活動につなげることができた。 教科等の授業においても、児童生徒同士が互いの発言を大切にし、聞き合えるような授業づくりについて指導を行ない、実施を進めてきた。 園では日々の活動の振り返り（話し合い）や、友達と相談しながら遊びをつくり上げていくごっこ遊びなどを通して、友達の思いに気付いたり、自分の気持ちに折り合いを付けたりする姿、友達と思いを共有して活動することを楽しむ姿が見られた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標③	指標名・内容	異年齢の関わり	
	令和2年度の目標	現状の取組を継続し、自己肯定感や思いやりの気持ちの育ちにつなげる。	
	令和2年度の実績	異年齢で関わる活動を日常的に計画、実施した。年長児の姿に憧れ、興味を持って活動しようとする年下の幼児や、年下の幼児に目線を合わせて関わる年長児の姿が見られた。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢の関わりによる幼児の心の育ちを保護者に伝え、共有することを継続する。 様々な人権課題にもしっかりと目を向け、学校において体験等も交えながら人権感覚の育成を図っていく。 		

重点的な取組	No.8	いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努めます。
	1-(2)-③	
担当部署	学校教育課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育や道徳教育等の充実を図り、児童生徒の人権意識の向上を図ります。 「橋本市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、いじめを認知した場合は、教職員、保護者、地域住民、関係機関等との連携を図り、迅速かつ適切に対処します。 	
	指標名・内容	いじめ認知件数の減少と解消率の向上
	令和2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> いじめ未然防止のため、日頃から児童生徒の様子に目を配るとともに、アンケート等で認知した事案に対して素早く対応し解決する。 各校において、いじめに関する研修会を年1回以上開催する。 「いじめは、どんな理由があってもいけないことである。」との認識の下、平素から児童生徒に対する指導の充実を図る。

成果指標①	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> いじめ認知件数978件、解消件数670件（3月末現在）。 ※いじめ解消要件：いじめ行為が止んでいる状態が3ヶ月継続し、被害者が心身の苦痛を受けていない。 各校において年間1回以上のいじめに関する研修会を開催した。 小6及び中3対象の意識調査では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」との質問に対して、小学校、中学校ともに97%が肯定的な回答をしている。（H31全国値 小学校97%、中学校95%） 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標②	指標名・内容	いじめの早期発見のためのアンケートの実施総数	
	令和2年度の目標	各校年間3回以上（実施総数57回以上）のアンケートを実施し、早期発見早期対応に努める。	
	令和2年度の実績	アンケート実施回数2回の学校が3校あったが、その他の学校においては年間3回以上のアンケートを実施することができた。実施総数は79回（平均4.2回）のいじめに関するアンケートを実施した。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> いじめはどこの学校でも起こりうるものとの認識を持ち、積極的ないじめの認知に引き続き取り組む。 早期発見・早期対応できるよう、日頃から児童生徒に目を配る。また、アンケートについても年3回以上実施し、いじめが継続していないかを丁寧に確認していく。 		

重点的な取組	No.9	「人権講演会」などを開催し、人権教育の充実に努めます。
	1-(2)-④	
担当部署	中央公民館	
具体的な施策	人権を尊重し、人権意識を高めるために、次の事業に取り組めます。	
	指標名・内容	各地区公民館にて講演会や映画上映会への参加数
	令和2年度の目標	引き続き精力的に事業に取り組む、全職員参加を目指す。

成果指標①	令和2年度の実績	各地区公民館で人権講演会・映画上映会を共催で開催し、多数の参加者があった。 人権講演会(紀見) 42名 人権講演会(学文路) 60名 映画上映会(隅田) 116名 人権講演会(橋本) 31名 人権講演会(紀見北) 23名 人権講演会(山田) 36名 人権講演会(恋野) 78名 人権講演会(高野口) 50名 合計:436名	
	評価	A	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、人権講演会等を開催し、参加者の人権意識の高揚に繋がった。
課題・今後の方向性	人権意識を高めるために今後も引き続き事業に取り組んでいく。		

重点的な取組	No.10	道徳教育の推進に努めます。	
	1-(3)-①		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育において、子どもの実態を踏まえ、学校や学年の段階ごとに道徳の時間を中心に取り組みます。 家庭や地域の方々との連携を図りながら、道徳性の育成に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	各校における道徳教育の年間計画作成と適切な実施	
	令和2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> 各校の児童生徒の状況に応じて年間指導計画を見直し、道徳の時間を中心に指導を充実させます。 教科用図書に掲載の教材だけでなく、和歌山県教育委員会作成の読み物資料集等の教材を各校の児童生徒の状況に応じて活用する。 	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 各小・中学校において年間指導計画や別様(各教科との関連)を見直し、道徳の時間を中心に指導を行った。 和歌山県教育委員会作成の読み物資料集や自作教材を各校の児童生徒の状況に応じて活用した。 	
	評価	B	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成 <ul style="list-style-type: none"> 中学校では、新学習指導要領の本格実施に伴い、年間指導計画や別様を作成した。 小学校では、昨年度作成した年間指導計画等の見直しを行った。 年間指導計画に基づき、取り扱う資料にも工夫を凝らし、道徳の時間を中心に指導を行うことができた。 年間指導計画を保護者と共有するまでには至らなかった。
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 小学校では平成30年度、中学校では令和元年度から「特別の教科 道徳」が本格実施となっており、これまでも授業改善や教材解釈等についての研修を行ったことで、一定の成果を挙げてきた。今後も優れた教材や指導方法の共有等を進めていきたい。 目指す子供の像、年間指導計画等を家庭や地域の方々とも共有し、互いに連携を図りながら道徳教育の推進を行っていく。 		

重点的な取組	No.1 1	中学生ボランティア・青年リーダーの育成に努めます。	
	1-(3)-②		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの校外活動を促進するとともに、青年リーダーの育成に努めます。 ・中学生ボランティア・青年リーダー活動を推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	青年リーダーによる研修会の開催、次世代の青年リーダー候補の育成	
	令和2年度の目標	青年リーダー40名 中学生ボランティア40名 引き続き事業として「子ども冒険村」「ジュニアリーダー研修会」を実施する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・青年リーダー：橋本高校で会員募集説明会を実施。会員34名。 ・中学生ボランティア：会員16名。 ・子ども冒険村：新型コロナウイルス感染防止のため中止 ・ジュニアリーダー研修会：新型コロナウイルス感染防止のため中止 ・中学生ボランティア交流会：参加者中ボラ6名、青年リーダー13名 ・中学生ボランティア研修会：参加者中ボラ3名、青年リーダー6名 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td>C</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>コロナ禍という特殊な事業もあり、活動ができなかった。青年リーダーは概ね会員数を維持できたが、中学生ボランティアが減少した。中学生ボランティアのモチベーションを向上させるために、青年リーダーとともに活動する交流会と研修会を実施したが中学生の参加者が少ない。今後、改善していきたい。</p>	C
C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
課題・今後の方向性	コロナ禍の中、会員のモチベーションの維持や魅力的な活動をしていくために、新たな活動機会の確保や活動内容の見直しが必要である。持続的な活動を今後も継続していきたい。		

重点的な取組	No.1 2	態度教育の推進に努めます。	
	1-(3)-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校が連携し、就学前教育から積極的に態度教育に取り組みます。 ・学校教育において、保護者や地域の方々と連携を図り、子どもの発達段階に応じた態度教育を進めます。 		
成果指標①	指標名・内容	大人が手本となって態度教育を推進	
	令和2年度の目標	園と家庭が連携しながら、保育者や保護者が手本となる態度（あいさつ、返事、食事のマナー等）を示し、子どもが身に付けられるようにする。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・園便りや懇談会等を通じて、保護者の協力が得られるよう働きかけた。 ・園外活動や来園者と接する機会では、保育者が率先してあいさつや会話を交わす姿を見て子どもも親しみを持ってあいさつ等を交わすことができた。 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>日常的な態度として身に付くよう、繰り返し丁寧に指導・援助した。</p>	A
A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
指標名・内容	小中学校における指導の充実		

成果指標②	令和2年度の目標	・小中学校においてあいさつ運動や啓発活動を実施し、粘り強く指導を行う。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教員からの指導はもとより、児童会・生徒会活動であいさつ運動の実施や啓発ポスターの掲示等を行い、児童生徒を巻き込みながら啓発に取り組んだ。 ・学力向上を支える基盤として、授業規律が整っていることが重要であるとの認識を共有し、繰り返し指導を行った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、黙って同じ方向を向いて食事を行うという指導を行った。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・小6及び中3対象の意識調査において「学校の規則を守っている」と回答している割合は、小学校90%、中学校93%（H31全国値 小学校92%、中学校96%）であり、規範意識を高めることが課題である。 ・授業規律については、どの先生も同じやり方で授業が行えるように「スタンダード」を作成している学校もあり、組織的な取組を進めている。 			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・園では保護者への効果的な働きかけについて研究する。 ・小中学校における規範意識調査の結果は調査年により増減している。継続的に規範意識を高められるよう、粘り強く指導を続ける。 		

重点的な取組	No.13	文化財の保護活用に努めます。	
	1-(4)-①		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財や埋蔵文化財等の保護と調査・活用に努めます。 ・郷土資料館で企画展、講座を開催し、地域学習の機会提供に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	指定文化財及び埋蔵文化財の保護活用の推進	
	令和2年度の目標	指定文化財の増加に努めるとともに、文化財への理解・活用に努める。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財指定等件数は世界遺産1件、国指定4件、国登録24件、県指定30件、市指定67件。 ・橋本市所在登録有形文化財補助金を交付し、登録有形文化財である利生護国寺山門修復工事を支援した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財件数は昨年度と変更はなかった ・利生護国寺山門が修繕され、登録有形文化財の景観が保たれた。 			
成果指標②	指標名・内容	郷土資料館における、地域学習の場としての各種事業の実施	
	令和2年度の目標	展示・講座の内容を工夫し、地域学習の推進を図る。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を十分に取り、郷土資料館講座を令和3年1~2月中に4回実施、参加者数は延べ49名。 ・令和2年度の来館者数は1,251人。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
新型コロナウイルス感染症の状況により、企画展や雛人形の展示が中止となったこともあり、来館者が昨年度と比較し減少した。			

課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、市内の文化財の保護活用に努める。 ・郷土資料館とあさもよし歴史館の統合に向けて、資料整理を進める。
------------------	--

重点的な取組	No.14	芸術文化の振興に努めます。
	1-(4)-②	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	市内の文化団体と協力し、橋本市の文化・芸術の維持向上に努めます。	
成果指標①	指標名・内容	橋本市民総合文化祭の開催及び参加者数
	令和2年度の目標	橋本市民総合文化祭を開催し、芸術文化振興をはかる
	令和2年度の実績	令和2年10月30日～11月1日の3日間にわたり、橋本市民総合文化祭を開催し、1,008人の来場者数を得た。
	評価	B
		A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		新型コロナウイルス感染症の影響により、例年の事業内容から変更した部分もあったが、感染症対策を十分に行い、市民総合文化祭を開催することができた。
成果指標②	指標名・内容	県展橋本展への参加者数
	令和2年度の目標	明確なテーマをもって取組み、来場者数増加を目指す。
	令和2年度の実績	令和2年12月5日～9日の5日間に渡り、県展橋本展を開催。868人の来場者があった。
	評価	B
		A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、セレモニーは中止したが、概ね例年と同様の来場者数を得た。
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年に国民文化祭が和歌山県で開催されることもあり、今まで以上に芸術・文化の振興に努める。 ・新型コロナウイルス感染症の状況をみ、開催の場合は対策を十分にとる。 	

重点的な取組	No.15	スポーツに親しむ場を提供します。
	1-(4)-③	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・体育施設の充実及び利用促進を図ります。 ・和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への参加、小・中学校と連携した選手の育成に努めます。 ・橋本マラソンを開催し、出場者にはスポーツ大会に参加することの喜び・応援者には人のがんばりを喜びと感じる精神を養います。 	
	指標名・内容	市民の健康の増進及び、体育の向上を図る取り組み
	令和2年度の目標	体育施設の貸し出しについて、ホームページ等で周知し、市民が気軽に運動に取り組めるような環境を作る。

成果指標①	令和2年度の実績	令和元年度における施設利用者数は、無料施設で133,234人、有料施設で159,161人であったのに対し、令和2年度の施設利用者数は、無料施設で26,400人、有料施設で106,532人であった。 ※無料施設の大幅減少はサマーボール中止のため（令和元年度90,000人）	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標②	指標名・内容	ジュニア駅伝上位入賞に向けた取組	
	令和2年度の目標	スポーツ推進計画で定めた3位を目標とし、選手の力を最大に引き出すよう練習に取り組む。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・1月と2月は土・日曜日で練習を実施。 ※新型コロナウイルス感染症のため、1月より練習開始 ・第20回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会（2月21日開催）に出場し、県内25市町中第17位の成績であった。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標③	指標名・内容	橋本マラソンの参加人数拡大への取組	
	令和2年度の目標	広く広報活動を行い、スポーツ推進計画で定めた2,500人を目指す。	
	令和2年度の実績	新型コロナウイルス感染症のため、開催中止（9月決定）。	
	評価	D	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会の種目、コース等全体的に見直しを検討する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症を考慮した事業実施の検討。 		
ジュニア駅伝に関して、市内の小・中学生の生徒数が減少するとともに、各個人の所属するスポーツクラブとの関係からジュニア駅伝に出場する選手の確保が困難になってきている。11月から2月上旬まで毎土曜日小学3・4年生を対象に走り方教室を実施し、未来の駅伝選手の発掘に努める。			

重点的な取組	No.16	自然と触れ合える体験活動の充実を図ります。
	1-(5)-①	
担当部署	学校教育課、生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育において、体験活動を取り入れた環境教育を充実させ、一人一人が環境を大切に思う気持ちを育みます。 ・園においては、散歩や園外活動、飼育・栽培活動等を通して自然に触れ、豊かな感情を育てます。 ・「子ども冒険村」などの自然体験事業を促進します。 ・希少種の保護に取組み、環境学習の推進に努めます。 	

成果指標①	指標名・内容	学校教育における体験活動を取り入れた環境学習の実施	
	令和2年度の目標	内容を充実させるとともに実施校数の増加を目指す。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における（県）緑育推進事業の実施を支援し、12校20学年で実施した。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて実施形態を変更した学校もあったが、無事、実施することができた。次年度は10校18学年での実施を計画している。 ・各学校においても、環境保全に関する施設見学や校区内清掃等を通じて、身近なところから体験活動を取り入れて環境について学習する機会を設け、児童生徒の環境に対する意識向上に努めた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		学校教育における体験活動を取り入れた環境学習を充実させることができた。	
成果指標②	指標名・内容	園外活動、飼育・栽培活動の充実	
	令和2年度の目標	豊かな感情や言葉の育ち、興味・関心といった学びにつながる力を意識し、計画性をもって活動する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の同じ場所を季節ごとに繰り返し訪れることで、自然の変化に気付いたり、疑問に感じたことを図鑑などで調べようとしたりする姿につながった。 ・飼育・栽培活動を通して、幼児なりの責任感をもって活動できた。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		幼児の気付きを絵や写真で表すことで、活動の振り返りがしやすくなり、次の活動への意欲につながった。	
成果指標③	指標名・内容	「子ども冒険村」等の自然体験事業の実施	
	令和2年度の目標	コロナ禍の中、出来る範囲の事業を実施していきたい。	
	令和2年度の実績	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、事業を中止した。	
	評価	D	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		コロナのため、事業を中止した。今後見直しをしていく。	
成果指標④	指標名・内容	希少種保護と環境学習の推進	
	令和2年度の目標	希少種ヒメタイコウチの保全方策を策定していく。	
	令和2年度の実績	天然記念物としてヒメタイコウチ生息地が指定されている自治体に施策について調査するとともに、市文化財保護審議会にこれを報告し、その方策について審議いただいた。今の段階では経過を観察していくことが望ましいとの審議会意見を受け、毎年生息調査を実施している。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		審議会の意見に基づき、継続的に生息調査を実施している。	

課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動等については、園外活動の下見、安全面の配慮等についての事前打ち合わせを引き続き丁寧に行い実施する。 ・「子ども冒険村」等の自然体験事業の実施については、コロナ禍を踏まえた事業内容の見直しが必要。その中で今の時代に沿った魅力ある事業として継続していきたい。 ・希少種保護については、ヒメタイコウチ生息地のある他自治体の動向とともに、管内生息地の継続的な生息調査により経過を観察していきたい。
------------------	---

重点的な取組	No.17	郷土の偉人の足跡を紹介し、郷土愛を育みます。	
	1-(6)-①		
担当部署	生涯学習課 中央公民館		
具体的な施策	(仮称)岡潔記念館整備に向け、「岡潔博士顕彰事業」を開催します。		
成果指標①	指標名・内容	(仮称)岡潔記念館の整備	
	令和2年度の目標	記念館の整備と業績の顕彰に努める。	
	令和2年度の実績	岡潔顕彰寄附金として14名の方から合計金額241,000円の寄附金をいただいた。	
	評価	B	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成
		クラウドファンディング含め、寄付をいただいた。	
成果指標②	指標名・内容	岡潔博士顕彰事業の推進	
	令和2年度の目標	顕彰講演会を開催し、広報活動に努め、来場者数の増加を図る。	
	令和2年度の実績	新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、講演会は中止となった。	
	評価	D	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成
		新型コロナウイルス感染症の状況により、講演会を実施することはできなかった。	
課題・今後の方向性	多数の方に岡潔博士の業績を知っていただけるよう、引き続き岡潔博士の顕彰事業を行う。また(仮称)岡潔記念館の整備に向け取り組んでいく。		

重点的な取組	No.18	学校においてふるさと学習に取り組めます。	
	1-(6)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	ふるさと教育副読本である「ふるさと橋本学」を用いた学習の充実をめざします。		
	指標名・内容	ふるさと学習の充実	

成果指標①	令和2年度の目標	地域の特色を生かした年間カリキュラムを実践する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区ごとに作成した年間カリキュラムにそって、各学校で「ふるさと学習」を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症により大きな制約を受けたが、可能な範囲で地域の方々の協力を得ながら、各地域の特色ある学習を実施した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症により大きな制約を受けた。 ・副読本「ふるさと橋本学」を教科等の授業で取り扱いやすい小学校に比べ、中学校においては授業時間の確保が難しい状況がある。特に本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で事業時数の確保が困難であった。 			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習副読本「ふるさと橋本学」DVD版を平成29年度に完成させたが、手元に常に端末がある状況ではなかった。今年度、国のGIGAスクール構想に伴い、一人1台端末が整備されたことから、一層の利活用を進めていきたい。 		

重点的な取組	No.19	学力向上に努めます。	
	2-(1)-①		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・(市)標準学力調査の実施とその結果分析から市や各校の課題を明らかにし、課題解決に向けて取り組みます。 ・学校において授業改善を図り、児童生徒の主体的な学びを目指します。 ・家庭学習を充実させるよう取り組みます。 ・園においては主体的に遊ぶための環境構成の充実に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	各校における(市)標準学力調査の経年変化及び課題への対応	
	令和2年度の目標	4月に学力調査を実施し、課題を明らかにするとともに、10月実施の(県)学習到達度調査で県平均を上回る。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染の影響を受けて、学力調査の実施スケジュールが変更された。 ・(市)標準学力調査は7月に実施し、結果分析会を開催して市内全体の傾向、各校の傾向について分析を行った。 ・12月に実施された(県)学習到達度調査(対象：小4・5、中1、2)では小学校では県平均と同程度、中学校では県平均をやや下回った。 ・本市の状況を改善するために、市内外の効果的な取組について校長会を利用して情報共有を図った。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組を実施してきたこともあり、(市)標準学力調査の結果は年々向上している。 ・家庭学習の習慣化に向けた取組を続けているが、なかなか結果として表れてこない。 			
指標名・内容	各校における授業改善の取組の把握と指導の充実		
	令和2年度の目標	学校訪問等で授業を参観し、各校の取組の実態把握をするとともに、児童・生徒の主体的な学びとなるよう指導を行う。	

成果指標②	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、学校訪問指導に制約を加えざるを得なかった。例年は、学校訪問等で授業を参観し、各校の取組の実態把握と全教職員への指導を行っているが、大人数の教職員が集合する機会を控え、校長等の代表者への指導にとどめた。 各校の学力向上担当者を集めての集合研修は行えなかったが、校長会において市内外の効果的な取組について校長会を利用して情報共有を図った。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標③	指標名・内容	特別支援教育の充実	
	令和2年度の目標	児童生徒の実態を把握した学級運営を行うとともに、個々に応じた方法・内容で学習できる工夫をするよう指導を行う。	
	令和2年度の実績	特別支援学級担当者研修会を実施し、特別支援学級における学級運営・授業作り等について研修した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標④	指標名・内容	各校における家庭学習時間の把握と啓発	
	令和2年度の目標	児童・生徒の家庭学習の習慣の定着を目指す。アンケート等で好結果を目指す。	
	令和2年度の実績	全国学力・学習状況調査は中止されたが、本市独自で生活習慣等についてのアンケートを実施し、各校の状況や市内全体の傾向についての情報共有を行った。「児童生徒質問紙」における「普段（月～金）の学校の授業時間以外の日あたりの勉強時間が1時間以上である児童生徒の割合」は、小中学校ともに過去の全国平均を下回っているが、年々改善が見られている。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標⑤	指標名・内容	遊びの環境構成の工夫	
	令和2年度の目標	主体的に遊ぶための環境構成について充実を図る。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 園訪問の機会を生かし、園職員と市の幼児教育担当職員が、物的な環境構成や人的な環境である保育者の関わり方について協議できた。 県教委の支援訪問を積極的に活用し、研修を重ねた園もあった。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		幼児の主体性の育ちが就学後の学びへの意欲につながると捉え、研究に努めた。	

課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの学級での指導が適切か否かを見極め、改善を図るためには、客観的な指標に基づくPDCAサイクルを確立することが重要である。4月の全国学力・学習状況調査及び（市）標準学力調査と10月の（県）到達度調査をC（チェック）の場面に据え、今後も年間2回のPDCAサイクルの充実を図る。 学力向上のためには「授業改善」や「教員の資質向上」が欠かせない。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、研修会の実施を控えなくてはならなかったが、今後の動向を見極めながら授業改善に向けた研修会の実施等を引き続き行う。 昨年度整備されたGIGAスクール端末を効果的に活用し、より効果的な授業が展開されるよう支援を行う。 幼児の主體的な姿とはどのような姿かについて、様々な研修等の機会を活用して深く掘り下げ、環境構成の工夫に生かしていく。
------------------	---

重点的な取組	No.20	体力向上に努めます。	
	2-(1)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストを核に据えたPDCAサイクルを確立します。 幼児期の運動発達を促し、体力づくりを推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	新体力テストを核に据えたPDCAサイクルの確立	
	令和2年度の目標	新体力テストにおいて、全学年でTスコアが全国平均を上回る	
	令和2年度の実績	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、本年度の新体力テストは中止された。	
	評価	D	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、4～5月の期間、小中学校は臨時休業の措置をとった。このような中、例年以上に慎重かつ丁寧に小中学校における取組を進めた。小学校では業間運動等に積極的に取組み、持久走や縄跳び等の活動を設定して普段から体を動かす習慣作りに取り組んだ。中学校では運動部活動においても、各校の課題を共有し、学校全体として体力向上に取り組んだ。	
成果指標②	指標名・内容	幼児自らが進んで身体を動かそうとする環境づくり	
	令和2年度の目標	幼児一人一人の運動課題を見極めながら、楽しんで身体を動かす環境の工夫をする。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 楽しんで身体を動かせることを意識して、活動の工夫をした。（鬼ごっこや散歩、リズム運動など） 保護者も幼児の一員となり、思い切り身体を動かして楽しむ姿を見せることで、積極的に活動を促した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		年度当初と比較すると体力はついたが、ある程度の姿勢保持も難しい幼児が増えているため、体幹を育てるための取組を継続する必要がある。	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 授業交流会をはじめとして市内外の優れた共有、実践し、体力向上に向けて一層取り組む。 幼児が思わず動きたくなる楽しい運動遊びについて研究をする。 		

重点的な取組	No.2 1	教職員の資質向上に努めます。	
	2-(1)-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	教職員を対象に研修会を開催します。		
成果指標①	指標名・内容	授業改善に向けた研修会の開催	
	令和2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県教育委員会とも連携し、教員の資質向上に取り組む。 ・ 講義のみの研修だけでなく、研究授業を核にしたより実践的に研修会を開催する。 	
	令和2年度の実績	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、集合研修や研究授業を行えなかった。	
	評価	D	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
新型コロナウイルス感染症の影響を受け、集合研修や研究授業を行えなかった。			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の動向を見極めながらではあるが、集合研修や研究授業を実施していきたい。 ・ 教職員の多忙化が問題となっており、教職員がじっくりと研修に参加することが困難になってきているが、今後も教員の資質向上のため、必要な研修会を精選して開催する。 		

重点的な取組	No.2 2	橋本市生涯学習推進計画に基づいた取組を進めます。	
	2-(2)-①		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人材を発掘し、共育コーディネーターが地域の核になるための研修を実施します。 ・ 地域づくりの主体となる語り合いの場づくりを進め、具体的な行動につなげていきます。 		
成果指標①	指標名・内容	地域を創る話し合いの場づくりの積極的な展開	
	令和2年度の目標	社会教育の根幹となる地域住民の参加をより一層促していく。実施回数は全館で1回以上実施を目指す。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の中で、共育ミニ集会を全地域で実施できなかった。 ・ 地域学校協働活動と学校運営協議会の連携と一体的推進を推進するため、共育コーディネーターだけでなく、学校運営協議会委員・学校関係者が一堂に会する研修会を学校教育課と連携して開催することが出来た。 ・ 紀見地区公民館の「9校園交流会」など、各間地域の実情に合わせね取り組みを行うことが出来た。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・ 共育ミニ集会については、コロナ禍の中で、計画するも全ての地域で未実施。改善点などを検討し、来年度実施に向け協議を行う。ただ、隅田中学校区においては、中学生が作成した「すみっしーダンス」を分散で撮影し、DVDを作成・YouTubeにアップするなど、昨年度から取り組んでいる「すみっしープロジェクト」推進することが出来ていた。 ・ コロナ禍の中で、各館で実施内容や時期が異なったため、その状況下で努力を行い、できる事をできる範囲で実施することが出来た。 			

課題・今後の方向性	共育コーディネーターが地域の核となるには、資質向上も必要であるが、地域への共育コミュニティ、共育コーディネーターの役割の周知が必要である。テーマを持って実施できるように今後努めていく。
------------------	--

重点的な取組	No.23	「すこやか橋本 まなびの日」事業を実施します。	
	2-(2)-②		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	健康部門と教育部門が協力し、協働のイベントを開催します。		
成果指標①	指標名・内容	「すこやか橋本 まなびの日」イベント内容の充実と多くの参加者の確保	
	令和2年度の目標	各参画団体と市の教育委員会及び健康福祉部とが連携、協働し、当日、多数の方が参加するイベントとなるよう取り組む。	
	令和2年度の実績	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために事業を中止した。	
	評価	D	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		コロナのため事業を中止した。コロナを踏まえた内容の見直しが必要。	
課題・今後の方向性	コロナ禍を踏まえた内容の見直しが必要。また、参画団体も年々減少しており、新規団体の参画など前例踏襲ではない新たな試みも必要。加えて、予算的にギリギリの運営が続き、予算が増額される見込みもなく、当日運営スタッフを担っていた橋本市子ども会連絡会の構成団体が減少し共催から外れることになる。今後も市と市民の協働で事業の充実と効率化を図っていく。		

重点的な取組	No.24	地域の特性、歴史、文化を生かした交流事業を充実させます。	
	2-(2)-③		
担当部署	中央公民館		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・「盆踊り」、「ふるさと散策」を開催します。 ・公民館まつりを開催します。 		
成果指標①	指標名・内容	地域住民がふれあえるイベントの実施数	
	令和2年度の目標	引き続きより魅力あるイベントの開催を増やしていく。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区公民館主催の盆踊り・夏祭り等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全て中止とした。 ・3月6、7日に開催予定であった第15回橋本市公民館まつりは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 	
	評価	D	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		盆踊り、公民館まつりを含めた市が主催する大規模なイベントは、全市的に令和2年度は実施することができなかった。	
課題・今後の方向性	公民館活動が衰退しないように今後も引き続き事業に取り組んでいく。		

重点的な取組	No.25	保育園・幼稚園・こども園と小学校との接続について、研究を進めます。	
	2-(3)-①		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校へのつながりを意識した幼児期の教育について、保育園・幼稚園・こども園が連携しながら研究に取り組みます。 ・幼児と児童の交流の場を計画的に設けるとともに、園と小学校の教職員の相互参観や研修の場を設定します。 		
成果指標①	指標名・内容	研究保育への参加	
	令和2年度の目標	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を手立てとし、園と小学校が子どもの姿を共有する。	
	令和2年度の実績	園から小学校に送付する要録の様式が10の姿を踏まえた記述となって3年目となり、園職員の意識は定着した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	園職員が10の姿を通して自園の幼児教育を語り小学校へ引き継いでいけるよう、保育者としての資質を高める。		

重点的な取組	No.26	中学校区を単位として、小中学校の連携充実に努めます。	
	2-(3)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区として育成したい児童生徒像を共有し、小中学校で連携した教育目標を設定する。 ・教育課程及び指導内容・方法並びに形態の連続性 ・連続性を大切にしたい児童生徒の活動 ・教職員間の連携 		
成果指標①	指標名・内容	中学校区を単位とした小中学校の連携充実	
	令和2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区として育成したい児童生徒像を共有し、小中学校で連携した教育目標を設定する。 ・指導内容・方法並びに形態の連続性を大切にしたい指導 ・連続性を大切にしたい児童生徒の活動 ・教職員間の連携 	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区として育成したい児童生徒像を共有し、小中学校で連携した教育目標を設定した。 ・中学校区の共有コミュニティとも連動させながら、中学校区としての取組を進めることができた。 ・部活動の見学や地域一斉清掃等、中学校区を単位として小中合同の活動や連続性を意識した活動を実施した。 ・小中学校間で管理職の交流は行っているが、時間的な制約があり全校的な教職員間の連携については十分に実施することができなかった。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成

	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区での小中学校の連携が進みつつある。 ・管理職レベルでは協議は進んでいるが、その他の教職員レベルでは時間的な制約も大きく、十分な連携を行えなかった。
課題・今後の方向性	管理職だけでなく、全校的な教職員の連携を進めていきたい。	

重点的な取組	No.27 2-(4)-①	教育環境の施設整備に努めます。	
担当部署	教育総務課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・市立小中学校の適正規模・適正配置基本方針に基づき施策を進めます。 ・学校施設の長寿命化を計画的に行います。 ・学校施設の安全管理に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	計画的な大規模改修の実施	
	令和2年度の目標	R2で西部小学校の長寿命改良事業3期のうち2期目、紀見小学校、隅田中学校、紀見東中学校、紀見北中学校のトイレ改修を実施する。また、境原小学校、清水小学校屋内運動場、城山小学校、隅田中学校、紀見東中学校、紀見北中学校校舎の外壁落下防止対策を実施する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・西部小学校の校舎の内部（教室の床・壁・扉、廊下や階段の床・壁等）の改修及び、南校舎2階、北校舎1階、屋内運動場のトイレ改修（洋式便器化、床乾式化、北校舎1階に多目的トイレ設置）を実施、その他、校舎屋上防水工事、屋内運動場外壁改修、屋上防水工事及び内部改修（照明器具LED化、アリーナ床塗装等）を行った。 ・隅田中学校の生徒棟1階トイレ（洋式便器化、床乾式化）、管理棟2階職員トイレ及び屋内運動場トイレの改修（洋式便器化、床乾式化）、紀見東中学校の特別教室棟1階・2階、管理棟職員トイレ及び屋内運動場トイレの改修（洋式便器化、床乾式化）を行った。 ・境原小学校、清水小学校の外壁及び屋上防水の劣化が著しく、落下防止、防水対策改修を行った。 ・城山小学校校舎、隅田中学校校舎、紀見北中学校校舎の外壁の劣化が著しく落下防止対策改修を行った。 ・境原小学校、学文路小学校、応其小学校、隅田中学校、紀見東中学校の屋内運動場照明器具をLED化するとともに落下防止対策を行った。 ・トイレに洋式便器の少ない柱本小学校と三石小学校、橋本中央中学校のトイレ改修を令和3年度に実施するため、工事設計を委託事業により実施した。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、通年の分散授業を可能とするため、中学校の特別教室に空調設備設置を行った。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性		昭和50年代から平成初期に建築され、築25年を超え老朽対策が必要な学校施設面積は学校施設面積全体の6割を越える状況であり、来年度以降も引き続き大規模改修工事を行っていく必要がある。市財政状況は引き続き厳しいため、補助金等を活用しつつ計画的な実施を行っていく。	

重点的な取組	No.28	児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、就学援助を行います。	
	2-(4)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者及び特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担の軽減を図るため、就学援助を行います。		
成果指標①	指標名・内容	国の基準に基づいた就学援助の実施	
	令和2年度の目標	必要な援助を平等に支給出来る方法を探る。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 要保護2名・準要保護414名 中学校 要保護2名・準要保護209名 (市立小・中学校全児童生徒の14.95% ※古佐田丘含む14.67%) ・市立小学校の特別支援学級全200人中 準要保護児童生徒援助費に56人、特別支援教育就学奨励費に133人を認定した。 ・市立中学校の特別支援学級全97人中 準要保護児童生徒援助費に35人、特別支援教育就学奨励費に58人を認定した。 ・令和2年度新小学1年生、新中学1年生の新入学児童生徒学用品費を前年度の3月に支給することができた。 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>国の基準に基づき、適正な時期に適正な支給ができた。</p>	A
A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
課題・今後の方向性	保護者のニーズや国の動向等により、事務が繁雑になってきていることから、出来るだけ簡素化できるよう工夫しているところである。引き続き、研究・実施を心がけたい。		

重点的な取組	No.29	教職員や児童生徒の心身の健康保持に努めます。	
	2-(4)-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のメンタルヘルスに関する取組の充実を図ります。 ・疾病及び感染症に対する予防保健活動の推進を図り、児童生徒等の心身の健康保持に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	学校長との面談	
	令和2年度の目標	職員の健康管理について校長面談の内容に盛り込む。	
	令和2年度の実績	校長面談や管理訪問で、職員の健康管理についてのヒアリングを行い、職場環境の状況を掴むことができた。	
	評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>各学校の教職員の健康状態や勤務状況を把握できた。</p>	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
成果	指標名・内容	がん教育の実施	
	令和2年度の目標	全市立小学校で、がん教育を実施する。	

指標②	令和2年度の実績	新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、全市立小学校6年生及びその保護者を対象とした医師による出張授業を見送った。	
	評価	D	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		事業を実施できなかったので評価できず。	
課題・今後の方向性	がん教育に関しては、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しつつ、可能であれば実施したいと計画している。		

重点的な取組	No.30	安定した学級運営を行うため、必要に応じて人的支援を行います。	
	2-(4)-④		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の多人数学級において支援が必要と判断した場合に、非常勤職員を配置します。 ・学級において指導困難な状況であると判断した場合に、非常勤職員を配置します。 ・介助が必要な児童生徒が在籍し、人的支援が必要であると判断した場合に、特別支援教育支援員を配置します。 		
成果指標①	指標名・内容	非常勤講師等の活用状況の把握	
	令和2年度の目標	非常勤講師等の活用状況を確認するために配置校の訪問を行う。	
	令和2年度の実績	配置校すべてを訪問し、非常勤講師（26名）の効果的な配置を確認することができた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
配置している非常勤講師等の支援が安定した学級運営につながった。			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校からのニーズが年々増加している現状であるが、人材確保が困難である。 ・来年は、会計年度任用職員制度に変わることによって、今まで同じ人的支援を行うことができるか課題である。 		

重点的な取組	No.31	住民との連携協力や生涯学習活動の支援に努めます。	
	2-(5)-①		
担当部署	中央公民館		
具体的な施策	地区公民館や学校および図書ボランティア等との連携協力や生涯学習活動の支援に努めます。		
成果指標①	指標名・内容	市民ボランティアへの支援	
	令和2年度の目標	各公民館とそこで活動するボランティアに有益な情報を提供し、活動の活性化を図る。	
	令和2年度の実績	地区公民館で活動されているサークルが、地域や学校へボランティアとして出向き、日頃の活動の成果を発揮することができた。	
		B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成

	評価	地区公民館で活動されているサークルに有益な情報を提供し、サークル活動を活性化させる一助となった。
課題・今後の方向性	公民館として今後も住民との連携協力を進め、生涯学習活動の支援に努めていく。	

重点的な取組	No.3 2	スポーツ推進計画に基づき、体力向上に努めるとともに、生涯スポーツに繋がる基礎を培います。	
	2-(5)-②		
担当部署	生涯学習課、中央公民館		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> すべての市民が気軽にスポーツに参加できる環境の整備に努めます。 スポーツにふれあうことにより、健康な人づくり、元気なまちづくりを推進します。 学校・各種団体と連携し、指導者・選手の育成や競技力の向上に努めます。 生涯スポーツやレクリエーション活動を通して、人々の健康増進と交流を深めるため、次の事業を行います。 		
成果指標①	指標名・内容	中央並びに地区公民館のスポーツ大会や健康増進行事への参加者数	
	令和2年度の目標	参加者数、前年比10%増を目指す。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 中央公民館が事務局を努める市民グラウンドゴルフ交流会は、コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 地区公民館でのスポーツ大会(グラウンドゴルフ大会)やウォーキング等の健康増進行事は、コロナ禍の中、参加者数を制限して実施した。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		今後も引き続き健康増進行事に取り組んでいく。	
成果指標②	指標名・内容	市民ニーズに応じたスポーツをし易い環境整備	
	令和2年度の目標	施設利用者等のニーズに応じて、可能な限り用具等の充実を図る。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した橋本市運動公園プールろ過器、高圧受電設備の修繕を実施した。 伏原体育館における雨漏りの修繕を行なった。 勤労者体育館における火災受信機の入替えを行った。 学文路東体育館における照明設備修繕を行った。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		施設の老朽化が目立つようになってきており、整備不良が原因で利用者及び職員が怪我することのないよう環境整備を行なった。	
成果指標③	指標名・内容	スポーツイベントを通じた地域交流の促進	
	令和2年度の目標	スポーツイベントを開催する際に、参加する人・見る人・支える人等が大会を通じて交流できるような仕組みの構築を目指す。	
	令和2年度の実績	新型コロナウイルス感染症のため、第24回橋本マラソン大会、第15回市民総合体育大会中止。	
	評価	D	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		新型コロナウイルス感染症のため、マラソン大会開催中止。またスポーツ少年団、体育協会の活動休止期間もあり満足なスポーツイベントが困難となった。	

成果指標④	指標名・内容	身体能力や技術力の向上を目指す組織作り	
	令和2年度の目標	体育協会・スポーツ推進委員・スポーツ少年団との連携を強化し、指導者・選手の育成に努める。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症のため、スポーツ少年団体力テストを中止とした。 ・スポーツ少年団理事会・総会等を書面決議として開催。体力づくり&交流会、研修会等は中止としたが、指導者、団員の育成において可能な限り連絡を密に努めた。 	
	評価	D	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が目立つようになってきており、整備不良が原因で利用者が怪我することのないよう細心の注意を払い、事後保全とならないよう予防保全を心掛ける。 ・新型コロナウイルス感染症を考慮した、事業実施を検討していく。 		

重点的な取組	No.33	ESDを意識した各種研修会を計画、実施します。	
	2-(6)-①		
担当部署	学校教育課、生涯学習課		
具体的な施策	ESDの視点で、全体計画及び年間計画を見直します。		
成果指標①	指標名・内容	ESDを推進するため、研修会等の実施	
	令和2年度の目標	各種事業の中でESDの視点の取組みもあるので、ESDの説明を入れ、理解を深める。	
	令和2年度の実績	民間企業、シルバー人材センター、スポーツ少年団、ボーイスカウト等の各種団体の協力のもと紀の川河川敷の清掃活動を実施した。清掃活動の後、子ども達を対象とした水生生物調査を予定していたが、台風による増水の影響で中止した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		河川の清掃活動を通して、環境に関する取り組みを行うことができた。	
成果指標②	指標名・内容	小中学校教職員を対象とした研修会等の実施	
	令和2年度の目標	小中学校教職員を対象とした研修会を1回以上実施し、ESDの理解を深める。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員向けの研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて実施できなかった。 ・奈良教育大学のESDコンソーシアムにおけるESD成果発表会・実践交流会（オンラインで実施）に参加し、あやの台小学校、応其小学校が実践発表を行った。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		ESD成果発表会・実践交流会に参加した学校もあったが、ESDを前面に押し出して取り組んでいる学校は少ないのが現状。	

課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDは持続可能な社会を生き抜くために必要であるため、ESDの視点を「ふるさと学習」に活かしていきたい。 ・ESDの実践校が少ないため、今後も教員の研修会を開催し普及に努めるとともに、よい実践例をたくさん紹介する機会をもちたい。
------------------	--

註) ESD (Education for Sustainable Development)
持続可能な開発のための教育

重点的な取組	No.3 4		「橋本市子ども読書活動推進計画（第2次）」に基づき、読書活動の充実に努めます。
	2-(7)-①		
担当部署	学校教育課、生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書活動関係ボランティアの活動の活発化に努めます。 ・学校等における読書活動を推進します。 ・ブックスタート事業を引き続き推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	一斉の読書時間の確保	
	令和2年度の目標	全小中学校で一斉の読書時間の確保を目指す。	
	令和2年度の実績	朝の学習の時間や週に1時間程度の読書時間を活用するなどほとんどの学校で確保できた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標②	指標名・内容	学校司書や図書ボランティア等の活用	
	令和2年度の目標	学校司書やボランティア、各学校児童生徒の委員会活動等利用し、推薦図書コーナー設置するとともに定期的な入れ替えや内容の充実に努める。	
	令和2年度の実績	各学校読書推進のための様々なコーナー（新刊本・推薦図書・寄贈本等）を設置し、定期的な入れ替えを行った。 図書ボランティアの方に向けた研修を実施した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標③	指標名・内容	各園の実態に応じた具体的な目標の設定と取組	
	令和2年度の目標	各園、前年度の反省と課題を踏まえながら実態に応じた目標を設定し、取組状況を報告し合い、充実につなげる。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでどおり、公立園、公設民営園、公私連携型の園では、子どもの実態を踏まえて一年間の具体的な目標を設定して取り組んだ。私立園も参加する年度末の園長会で保護者への啓蒙を議題に各園の取組を紹介し合った。 ・図書ボランティアの方に向けた研修を実施した。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		園長会で読書について情報交換することで、乳幼児期の読書活動推進への意識を確認できた。	

成果指標④	指標名・内容	学校司書だよりの発行	
	令和2年度の目標	各学校の実態に応じた内容で「学校司書だより」を発行する。	
	令和2年度の実績	学校司書発行の「図書だより」は年2回、各学校の実態に合わせて発行できた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	橋本市子ども読書推進計画（第3次）に基づき、学校を中心にボランティア・学校司書と連携しながら、読書推進に取り組んでいく。		

重点的な取組	No.35	市民に役立つ図書館づくりに努めます。	
	2-(7)-②		
担当部署	図書館		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性や利用者のニーズに応じた図書館資料の収集と整理・保存及び情報提供に努めます。 ・親しみのある図書館サービス活動を展開します。 ・子どもの読書活動の推進に努めます。 ・地区公民館や学校及び図書ボランティアなどとの連携協力や生涯学習活動の支援に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	資料の収集・整理・保存	
	令和2年度の目標	体系的な資料の整備を進める。	
	令和2年度の実績	臨時休館やサービス制限期間もあった中で、話題の本や時事に関する資料について検討し、蔵書の構成・収集に努めた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標②	指標名・内容	主催行事の充実	
	令和2年度の目標	内容等に検討を加え、更なる充実を目指す。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が安心して主催行事に参加できるように、新型コロナウイルス感染予防対策に努め開催した。 ・地域に関連した内容等、多種にわたった内容の講座開催に努めた。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
指標名・内容	子どもたちの読書へのきっかけづくり		

成果指標③	令和2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> 調べる学習コンクールやビブリオバトルの継続実施に努める。 団体貸出制度の活用に向けて広報活動に努める。 	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 「橋本市図書館を使った調べる学習コンクール」を継続して開催することが出来た。 団体貸出の広報等は出来なかったが、幼児を中心としたセット貸出やお楽しみ袋の貸出をした。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> 「第4回橋本市図書館を使った調べる学習コンクール」に、例年より夏休みが短かったにもかかわらず市内小学生60作品・大人1作品が提出された。 ビブリオバトルの開催ができなかった。 セット貸出やお楽しみ袋の貸出をしたところ、盛況であった。 	
成果指標④	指標名・内容	ボランティアの支援を募る	
	令和2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> 市内外の高校への周知に努める。 定期的にボランティアを募集する。 	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 図書修理と書架整理や配架のボランティアを募集した。 一部主催行事のボランティアは固定して参加がある。 高校生等のボランティア活動は行えなかった。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> 従来の活動内容に加えて、新たな活動をしてもらった反面、数年継続し定着していた高校生・大学生ボランティアの活動が全く出来なかった。 	
課題・今後の方向性	新型コロナウイルス感染状況をふまえて、より安心して利用される図書館を目指し、情報収集の場、生涯学習の場として、市民に役立つ図書館づくりに努める。		

重点的な取組	No.36	食に関する指導の充実に努めます。	
	2-(8)-①		
担当部署	学校給食センター		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 学校における食育の推進を図ります。 家庭との緊密な連携のもと、子どもの健全な成長、発達に不可欠な食生活の充実に図ります。 学校と給食センターとの連携を密にします。 		
成果指標①	指標名・内容	学校給食の献立表を工夫し、食に関する情報発信を行う。	
	令和2年度の目標	現状としても工夫しているが、さらに工夫をした献立表を作成する。	
	令和2年度の実績	地元食材、行事食の紹介やマナーなど食に関する様々な情報を掲載した献立表を毎月配布した。また、橋本市のラインにも掲載を行い、いつでも携帯で見ることができる活用しやすい形態とし、アレルギー専用の献立表も対応品目が複数となるため変更した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		特に平成30年度から行っている食物アレルギー対応で対象品目が今年度から複数となるため、見やすく活用しやすいアレルギー専用の献立表を作成することで誤食誤配のリスクを抑えることができた。	
指標名・内容	栄養士等による「食に関する指導」の実施		

成果指標②	令和2年度の目標	直接児童生徒に接し、食の大切さを伝える。	
	令和2年度の実績	市内14校の6年生を対象にバイキング給食を計画し、バイキング給食実施時に栄養素の講話を行い、食の大切さを十分理解してもらった。給食センター見学時に実際の調理の様子を紹介し、食べ残しを減らすよう指導を行った。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
コロナ禍で直接子どもたちと接する機会が少ない中、バイキング給食は全校実施することができた。給食センター見学は1校ではあるが実施でき、直接児童の意見を聞くことができた。			
成果指標③	指標名・内容	保護者対象の給食試食会の実施	
	令和2年度の目標	保護者の方に学校給食について内容を知って頂く。	
	令和2年度の実績	市内小学校1年生の保護者を対象に給食試食会を実施し、センターの施設概要、学校給食の内容・目標・安全（今年度は特にアレルギー食）について説明し、意見交換を行った。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
例年通り、学校給食全般の説明はでき、加えてアレルギー除去食対応の説明も簡単ではあるがすることができた。			
成果指標④	指標名・内容	給食主任者会議の実施	
	令和2年度の目標	学校と給食センターとの連携を密にする。	
	令和2年度の実績	市内小中学校19校の給食主任者と年2回、会議を開催し、普段の給食やこれからの新しい取り組みについて意見交換を行った。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
センターでは給食を作る、運ぶがメインとなるが学校で子供たちが給食を配膳し、給食を食べ、下膳するまでの問題点等を協議することができた。また、今後の食物アレルギー対応で誤配誤食を防ぐための意見交換を行うことができた。			
課題・今後の方向性	課題は、この食育についての取り組みは、給食センター単独では難しく、今後の方向性として、学校、保護者、生産者との連携、意見交換を増やし、今後の食育の推進に役立てる。		

重点的な取組	No.37	学校給食における食物アレルギー対応を実施します。
	2-(8)-②	
担当部署	学校給食センター	
具体的な施策	食物アレルギー対応検討委員会を設置・開催し今後の対応を決定する。	
指標名・内容	学校給食における食物アレルギー対応の実施	
	令和2年度の目標	現在、「卵」、「えび・かに」の除去食対応を行っているが、今後の対応内容とスケジュールを決定していく。

成果指標①	令和2年度の実績	食物アレルギー対応検討委員会を設置・開催し、現在、実施している「卵」、「えび・かに」に加え、令和3年度から「乳」の対応を追加し、代替え食の部分対応では、「牛乳」を「豆乳」に変更する対応に加え、「小麦粉使用のパン」を「米粉パン」に変更する対応を行うことが決定した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	課題としては、表示義務の必要な特定原材料の7品目の内、「そば」「落花生」は食材として今後も使用しないと決定しており、残りの「小麦」の対応を検討していく。方向性としては、今後も食物アレルギー検討委員会を設置・開催し、安全を最優先に対応を検討する。		

重点的な取組	No.38	地域共育コミュニティ形成促進事業・放課後子ども教室推進事業を実施します。	
	3-(1)-①		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習による人づくり・地域づくりのために市民のつながりを大切にし、学校・家庭・地域の連携を促す取組を推進します。 ・放課後子ども教室推進事業を推進します。 ・共育コミュニティ形成促進事業・放課後子ども教室推進事業が持続可能とできるような実施形態の見直しを検討します。 ・コミュニティづくりに寄与する取組や実践を共有し、活性化に働きかけます。 ・学校運営協議会を設置したコミュニティスクールが市内全小・中学校に設置された。担当課である学校教育課とさらに連携をはかり、より学校と連携したコミュニティづくりを推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	地域共育コミュニティ形成促進事業	
	令和2年度の目標	事業の実施形態の見直しを行い事業の持続可能性を追求する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方への周知のために、共育コミュニティのチラシを作成し、地域支援者養成講座などで配布をした。また今年度は、公民館と連携し、公民官報を通じて共育コミュニティの周知に努めた。 ・ボランティアの方に向けた学校支援のまとめを作成済み ・地域学校協働活動と学校運営協議会の連携と一体的推進を推進するため、共育コーディネーターだけでなく、学校運営協議会委員・学校関係者が一堂に会する研修会を学校教育課と連携して開催することが出来た。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		事業を継続するためには、幅広い年代の方に活動を知ってもらう必要があるため、今後も共育コミュニティについて周知をはかっていく。	
	指標名・内容	放課後子ども教室推進事業	
	令和2年度の目標	事業の実施形態の見直しを行い事業の持続可能性を追求する。	

成果指標②	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・実施延べ回数 216回 ・参加児童延べ人数 3,116名（実績報告値） ・地域の方への周知のために、ふれあいルームのチラシを作成し、地域支援者養成講座などで配布した。家庭教育支援チームの情報誌「げんきっこfamily春の号」でふれあいルームの活動を特集として掲載した。 ・共育、ふれあいルームのコーディネーター間の情報共有のため相互の会議録を配布している。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの安心安全な居場所としての放課後ふれあいルームの運営には学校・地域の協力が不可欠な為、ふれあいルームの周知をさらに図っていく。 ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、活動期間や活動内容が制限され、携わっていただく方にも、これまでにない対応をお願いすることとなったが、子どもたちの安全安心な居場所として、有意義なふれあいルームを実施することができた。 	
成果指標③	指標名・内容	こどもの居場所づくり事業	
	令和2年度の目標	事業の実施形態の見直しを行い事業の持続可能性を追求する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・実施延べ回数 28回 ・参加児童延べ人数 268名 ・小学校0箇所、中学校2箇所、公民館1箇所で実施 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		ボランティアや参加者の確保に苦慮しているところもあるため、事業の案内・募集方法を検討していきたい。	
課題・今後の方向性	地域共育コミュニティ形成促進事業・放課後子ども教室推進事業の運営には学校・地域での認知と理解を得ることが必要であり、今後さらに周知をはかっていく必要がある。また各学校でコミュニティスクールができていく中で具体的にどのような連携をはかっていくかが課題である。		

重点的な取組	No.39	実効性のあるきのくにコミュニティスクールの推進。	
	3-(2)-①		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	学校運営協議会した学校と既存の「きのくに共育コミュニティ」との連携・協働により社会総掛かりで教育の実現を目指す。		
成果指標①	指標名・内容	学校運営協議会の本格的な実施	
	令和2年度の目標	学校・地域・福祉関係等様々な立場から、子どもたちの育ちを考える。	
	令和2年度の実績	各学校のニーズに合わせた特色ある取組みをすすめられた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		各学校は、コロナ禍の中、試行錯誤しながら行事等を精選するなど、特色ある取組みができた。	
課題・今後の方向性	学校と地域が目標やビジョンを共有し、取組を進める。		

重点的な取組	No.40	学校評価の実施と結果の公表を行います。	
	3-(2)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、自己評価の実施と公表を行います。 ・学校は、学校関係者評価を実施し、学校運営の改善に生かします。 ・教育委員会は、学校評価の結果を学校に対する支援に生かします。 		
成果指標①	指標名・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における学校関係者評価の実施 ・前年度の学校評価結果に基づく、学校運営の改善 	
	令和2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全校において学校関係者評価を実施する。 ・全校において、前年度の学校評価結果に基づき、学校運営の改善を実施する。 	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全校において、学校運営協議会による学校関係者評価を実施した。 ・全校において、令和元年度の学校評価の結果に基づき、学校経営計画の修正を行い、年間を通して各校の取組に反映させた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施が義務化されている自己評価に加え、努力義務とされている学校関係者評価を全校で実施している。保護者、学校運営協議会からの意見に対して真摯に向き合い、学校運営に反映することができている。 ・評価結果については学校だより等で公表するとともに、保護者等から寄せられた意見についての回答を丁寧に行っている。 ・学校評価委員による評価結果では、課題改善に向けた前向きな意見や提案をいただいている。 	
課題・今後の方向性	社会に開かれた教育課程を実現するため、引き続き、保護者、学校運営協議会の評価を学校経営に生かしていく。		

重点的な取組	No.41	保護者や地域社会に学校情報を発信します。	
	3-(2)-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	学校WEBサイトや学校だより等、様々なメディアを通じて学校の取組や考え方を知らせることにより、教育活動に対する理解と参画を進めます。		
成果指標①	指標名・内容	各校のWEBサイトや学校だよりによる学校教育活動の情報発信	
	令和2年度の目標	各校のWEBサイト等を活用し、学校教育活動の情報発信に努める	
	令和2年度の実績	各学校ではWEBサイトの更新を行い、学校生活の様子を発信した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・各学校のWEBサイトや学校便りをとおして、学校の取組や児童生徒の活動の様子を発信している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、例年実施している11月の学校開放月間について、入校者を保護者のみに限定して実施した。また、実施を見送る判断をした学校もあった。 	
指標名・内容	園便りやWEBサイト等による情報発信		

成果指標②	令和2年度の目標	各園の実情に応じた方法で、保護者や地域の人に分かりやすい伝え方の工夫をする。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・園のHPでは、行事等を中心に発信し、保護者の安心につなげた。 ・園便りや通信を配布したり、ドキュメンテーションを作成したりし、子どもの具体的な姿から、幼児教育の大切さを感じ取れるよう工夫した 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性		<p>コロナウイルス感染症拡大対策の業務が増えたこと等により、HPは令和元年度より更新回数が少なくなった。ドキュメンテーションは、学級懇談会などでも活用し、保護者の園教育への理解が深まった。</p> <p>学校の教育活動を早く、広く知ってもらうためには、WEBサイトの充実は必要不可欠である。今後も積極的な活用を進める。</p>	

重点的な取組	No.4 2 3-(3)-①	地域と連携した安全教育を推進します。	
担当部署	学校教育課、教育総務課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校において、防災訓練を実施します。 ・交通安全、生活安全等、安全に関する指導の充実を図ります。 		
成果指標①	指標名・内容	火災、地震等災害別の防災訓練の実施	
	令和2年度の目標	年2回災害別の防災訓練を実施する。	
	令和2年度の実績	各学校で、年2回の防災訓練と、年1回の防犯訓練を実施した。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		各校年2回の防災訓練、年1回の防犯訓練を実施している。なお、地域の自主防災組織や関係機関と連携し、より実践的な訓練を行う事ができた	
成果指標②	指標名・内容	通学路の安全点検	
	令和2年度の目標	橋本市通学路交通安全プログラムに則り、通学路の安全点検を実施する。	
	令和2年度の実績	橋本市通学路交通安全プログラムに基づき、関係機関による通学路合同点検を実施し、安全対策が必要な箇所を8カ所追加した。プログラムに掲載の要対策箇所は合計99カ所となり、そのうち対策済の箇所は75カ所となった。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		通学路安全推進会議を実施し、通学路交通安全プログラムの見直しを行った。	
課題・今後の方向性	<p>通学路の安全対策については、「通学路交通安全プログラム」に基づき点検等を実施し、ハード面に対策可能な場所はできるかぎり対応しているが、対応できないものも多くあるため、引き続き、児童生徒への安全教育・安全指導や、地域の見守り等のソフト面での安全対策を充実することが重要である。</p>		

重点的な取組	No.4 3	青少年育成市民会議の活動の推進に努めます。	
	3-(3)-②		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年の健全育成を阻害する環境の浄化に努めます。 ・ 社会を明るくする運動を推進します。 ・ 子ども・若者の社会的自立支援の促進に努めます。 ・ 青少年の健全育成活動の推進と充実に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	登下校時の見守り活動の実施	
	令和2年度の目標	500名の見守りボランティアの登録を維持する。	
	令和2年度の実績	令和元年度の見守りボランティア登録者は、486名。	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災行政無線を活用しながら、多くの見守りボランティアの方々に街頭に立っていただいて、子ども達の安全を確保した。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、登録者数が減少した。 	
成果指標②	指標名・内容	子どもを守るための啓発活動・講演会の実施	
	令和2年度の目標	引き続き各中学校区での研修会等の実施と各健全育成会と連携して講演会等を実施する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 橋本中央中学校区…共育ミニ集会 中止 ・ 紀見東中学校区…講演会 中止 ・ 紀見北中学校区…講演会、中止 ・ 高野口中学校区…教育講演会、令和2年10月1日、94名参加 ・ 隅田中学校区…共育コミュニティ集会、中止 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんどの中学校区で講演会等が開催できなかった。	
課題・今後の方向性	更なる青少年健全育成の充実に努めるために、学校・家庭・地域が一丸となって取り組んでいきたい。		

重点的な取組	No.4 4	地域の学びの場として、公民館主催行事を充実させます。	
	3-(3)-③		
担当部署	中央公民館		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが数学及び科学への興味や関心を持つように努めます。 ・ 生涯にわたって心豊かに学べる講座、教室、交流会を開催します。 ・ 人と人との交流を深めるとともに、健康維持の増進に努めます。 		
成果	指標名・内容	「おもしろ算数・数学教室」、「低学年のための親子算数教室」、「岡潔博士顕彰事業」、「低学年のための親子科学教室」の開催	
	令和2年度の目標	各事業広報活動を行い、参加者増を目指す。	

指標①	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「おもしろ算数・数学教室」 年8回開催、参加者5名 ・「低学年のための親子おもしろ算数教室」 年8回開催、参加親子16組 ・「低学年のための親子科学教室」 年7回開催、参加親子13組 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		子ども達が、数学や科学へ興味関心を持てる事業を継続的に実施した。	
成果指標②	指標名・内容	橋本市民大学いきいき学園などの開催	
	令和2年度の目標	学ぶだけでなく、学生自身が講師となり、教える側・学ぶ側との相互学習の機会を組み入れ、生涯学習として取組む。	
	令和2年度の実績	令和2年度は、コロナ禍の中、講座を辛うじて開催できた状態であり、講座で学生自身が講師になる機会まではできなかったが、各学年のホームルーム等で学生同士が、相互学習の場を作っていた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		概ね達成できたが、次年度は学生が自ら主体となった取組みを実施していきたい。	
成果指標③	指標名・内容	グラウンドゴルフ大会やハイキングなど、スポーツ・レクリエーションの開催	
	令和2年度の目標	高齢者向きの取組みが多く、参加者も多いが、若年層向けの事業を開催する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館が事務局を努める市民グラウンドゴルフ交流会は、コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 ・地区公民館でのスポーツやウォーキング等の健康増進行事をコロナ禍の中、参加者数を制限して実施した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		コロナウイルス感染症対策を講じながら、スポーツやウォーキング等の事業を参加者数を制限して実施した。	
課題・今後の方向性	今後も引き続き公民館主催行事を充実させていく。		

重点的な取組	No.45	家庭教育支援相談室を活用し、福祉と教育の連携を深めます。
	3-(4)-①	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援・子育て支援の団体の連携を推進します。 ・家庭教育支援・子育て支援等の団体が連携することにより、子育て等の悩みの解消に努めます。 	
成果指	指標名・内容	「家庭教育支援相談室」の活用
	令和2年度の目標	部屋の稼働率90%を目指す。
	令和2年度の実績	橋本市子どものための教育福祉連携会議や家庭教育支援チームヘスティアによる会議、個別相談などで「家庭教育支援相談室」を使用した。 各団体の使用回数合計：104回 【部屋の稼働率】 104回÷365日＝28.5%（使用回数合計/日数）

標①	評価	D	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<p>部屋の稼働率は目標値よりも低い結果である。家庭教育支援チームの利用がほとんどの中、その他の会議等についての利用があまり見られていない。新型コロナウイルスの影響により、大人数で部屋の利用ができなくなったことが稼働率低迷の一因である。</p>	
課題・今後の方向性	<p>令和3年度から健康福祉部家庭教育支援室に家庭教育支援相談室が事務移管された。今後は家庭教育支援室と連携していく。</p>		

重点的な取組	No.46	学童保育の充実に努めます。	
	3-(4)-②		
担当部署	教育総務課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の資質向上に努めます。 ・施設の環境整備に努めます。 ・学童保育の質的向上をはかるため、NPOへの加盟を推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	学童保育の充実	
	令和2年度の目標	コロナ禍において感染症対策を行いつつ、保育を必要とする世帯に対し、保育を提供する。	
	令和2年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年4月5月は、学校が休業となり、児童が自宅で過ごすこととなった。しかしながら、仕事の都合により日中家庭で保育を行えない世帯があったため、学童保育を実施した。具体的には、午前中は学校にて教職員が対応し、午後から学童にて保育を実施した。 ・国庫補助金を活用し、各施設に新型コロナウイルス感染症対策用の補助金を交付し、各施設において消毒用アルコールやマスク、その他新型コロナウイルス感染症対策の備品等を購入し、対策を講じた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き新型コロナウイルス感染症対策が必要であることから、国庫補助金等を活用しつつ、感染症対策を講じていく。 ・学童保育のニーズの増えている地域に対し、学童保育を提供できる場を整えていく。 		

重点的な取組	No.47	学校プラットフォーム化の推進に取り組みます。	
	3-(4)-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの課題を早期発見するため効果的なスクリーニングのあり方を研究します。 ・学校に福祉的視点を取り入れ、福祉サービスや地域資源を有効に活用する事例研究を進めます。 		
	指標名・内容	学校プラットフォーム化の推進	

成果指標①	令和2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> モデル校を指定し、スクリーニング・ケース会議等の効果的なあり方について研究する。 スクリーニングの手法を用いて、支援を要する可能性のある家庭の早期発見につなげ、効果的な支援につなげる。 	
	令和2年度の実績	モデル校として城山小学校、学文路小学校、紀見小学校の3校を、学校単独として隅田小学校、あやの台小学校の2校でスクリーニング・ケース会議を実施した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> 実施校の教職員にスクリーニングによる子ども状況把握について学んでもらうことができた。 スクリーニングの手法を用いて、支援を要する家庭の早期発見につなげた。 			
課題・今後の方向性	スクリーニングシートを活用し、教職員間で意見交換を行うことは有効であったが、これをもとに「地域資源」や「専門機関」に振り分けてつなぐという点について課題が見られる。有効な「地域資源」や「専門機関」が少ないこともあり、学校として児童をつなげていくという意識があってもつなげにくい。今後は、行政機関や地域人材とも子どもの課題を共有しながら、「地域資源」や「専門機関」を活用する道筋をつけていく必要がある。		

◎ 有識者会議委員の意見

■ 教育環境の施設整備について

トイレ改修関連については、文化的な洋式という形で進んできており、衛生面から見ても、良くなっていると感じるが、公共施設については、公共下水道へ引き込むべきだと考える。

厳しい財政事情の中で、またコロナ禍の中で、本当に少ない人数で計画的、効率的に施設の整備を進められている点は高く評価できる。

学校等から、ここが危険だというような情報があれば、予算等いろいろな事情があるかとは思いますが、やはり事故が起きてからでは、時間的にも、労力的にも数段厳しい対応を強いられるので、是非ともそういった時には教育委員会を挙げて、その対応を検討していただきたい。

限られた予算の中から業務を遂行していただいているというのは、子どもたちにとって本当にありがたい。

特に空調設備の整備に関しては、子どもたちから喜びの声が上がっていることは、本当に保護者としてはありがたいと思っている。

ただし、トイレに関しては、時代にそぐわないくらいの状況の学校も一部あり、特に思春期の女子生徒は、どうしても衛生面をすごく気にすると思う。トイレ単体での整備が難しい事情もあると思うが、早急に何らかの改善策を講じられたい。

防犯カメラや防犯灯についても、暗いとか危ないと思う場所があるので、イニシャルコストやランニングコストのこともあると思うが、子どもの安全面という視点から考えていただきたい。

また、整備方法に関しても、防犯灯ではなく安全灯として整備する方法も検討されたい。

例えば、消防設備など安全面を第一に考えるべきものについては、財政難の問題ではないので、100パーセントの対策を講じられたい。

どの学校も子どもたちを含め利用する全ての人が「今使っている施設は、これまでのご苦労があって使わせてもらっているんだ。」という感謝の気持ちを持ちながら、次の世代に引き継いでいくことを、教育を通じて徹底していただくことが、橋本市が目指す「豊かな心」にも繋がってくる。それが先々、橋本市に愛着を持ち、将来何かあった時でも地元に戻ってくる、母校はここだというような思いに繋がるのではないかと強く思う。

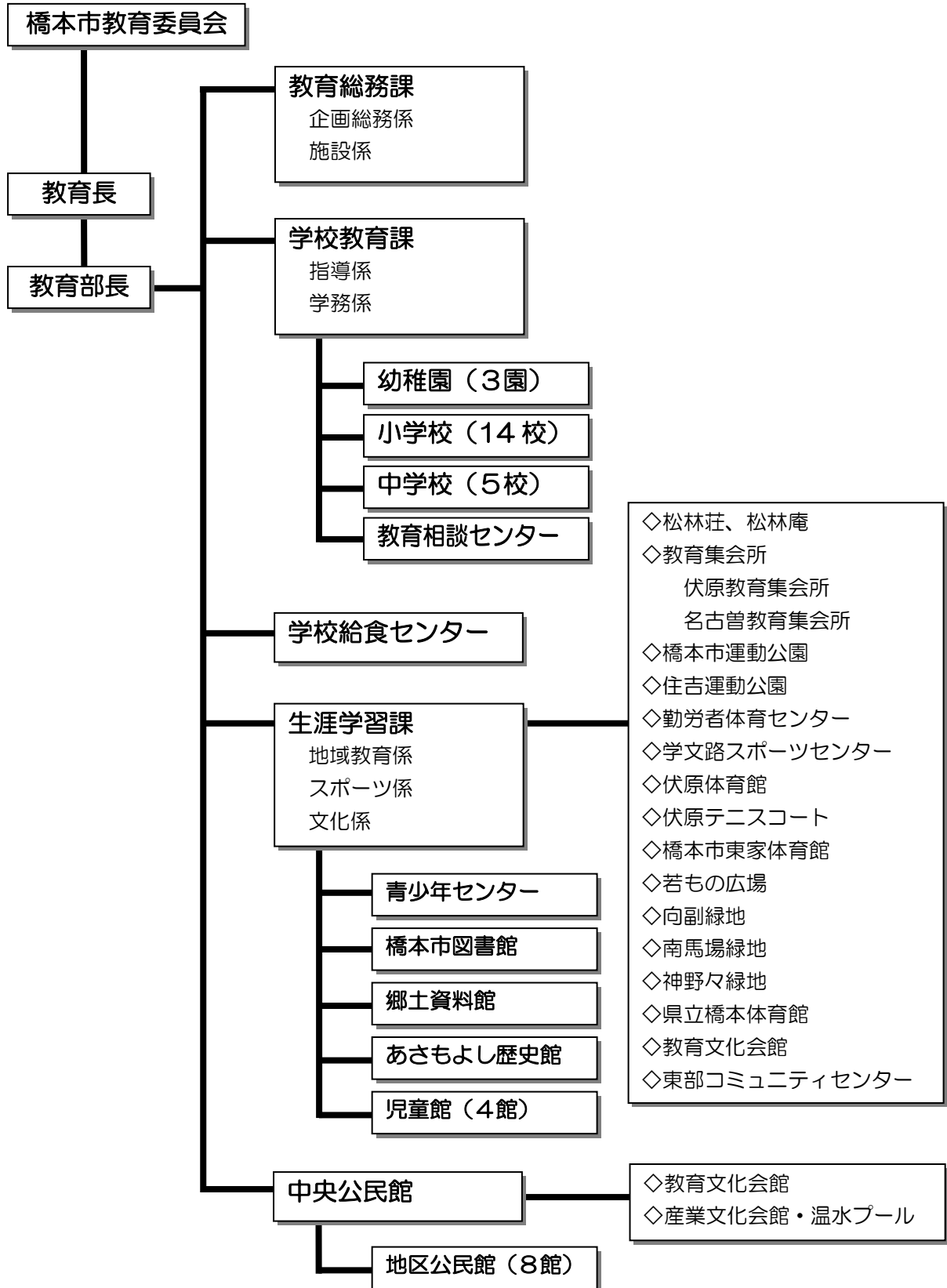
■ 評価シートについて

各指標の評価において、実績の件数など数字だけでは評価できにくいことがあると思うので、参加者の感想や意見を参考にするなど、今後、評価方法についても検討していただきたい。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 橋本市教育委員会機構図

(令和3年4月1日現在)



2 教育委員会の会議等の活動状況

(1) 橋本市教育委員会委員(令和3年4月25日現在)

職名	氏名	任期
教育長	今田実	令和3年4月25日～令和6年4月24日
教育長職務代理者	中尾悦子	平成31年4月22日～令和5年4月21日
委員	田中敬子	令和2年4月22日～令和6年4月21日
委員	藪下純男	令和3年4月22日～令和7年4月21日
委員	吉田元信	平成30年4月25日～令和4年4月24日

(2) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回定例会を、また、必要に応じて臨時会を開催している。

- ① 令和元年度開催状況 定例会 12回 臨時会 1回
- ② 定例会及び臨時会の議案等件数 付議事項 13件 報告事項 44件
- ③ 付議等の主な内容

教育行政の基本計画・基本方針に関すること。

教職員の人事、服務に関すること。

附属機関の委員の任免並びに委嘱及び解嘱に関すること。

条例、規則その他教育委員会の定める規程の制定改廃に関すること。

教育委員会事務の管理及び執行状況の点検及び評価に係る公表等に関すること。

教育委員会の行う表彰その他の重要な表彰に関すること。

(3) 教育功労賞

次の部門において、著しく功績あった方に対し表彰を行い、功績を称えた。

- ① 学校教育部門 6名
- ② 社会教育部門 0名

IV 関連資料

1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)抜粋

第二十六条 (一部省略)

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会事務の点検及び評価実施要綱

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第27条の規定に基づき、橋本市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価(以下「点検及び評価」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の実施)

第 2 条 教育委員会は、毎年、教育に関する事務が橋本市教育施策の方針に基づいて適切に実施されているか点検するとともに、その成果及び課題等について自ら評価するものとする。

(学識経験者等の知見の活用)

第 3 条 教育委員会は、点検及び評価についての客観性・公平性を確保するため、点検及び評価の実施方法並びにその内容等について意見を聴取するなど、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(点検及び評価の結果の活用)

第 4 条 点検及び評価の結果は、教育施策の企画立案等、効果的な教育行政の推進等に活用するものとする。

(市議会への報告等)

第 5 条 点検及び評価の結果については、報告書を作成して市議会へ提出するとともに公表するものとする。

(その他)

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、点検及び評価に関し必要な事項については、教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年10月8日から施行する。